

漢語近世音エクササイズ(1)

中村雅之

かつて本誌上で「漢語近世音のはなし」と題する不定期連載を載せたことがある(79号～90号)。実は未だに完結していないのであるが、いつの日か完結することを想定して、同時並行的に練習問題を用意することにした。今回の問題は「漢語近世音のはなし---(6) 尖音と団音」(『KOTONOHA』第90号、2010年5月)の部分に対応するもので、解答と解説を付した。

【確認】まずは尖音と団音についての確認。現代の普通話で「j」「q」「x」の声母をもつものは、歴史的に[ts][tsʰ][s]に遡る尖音と、[k][kʰ][h]に遡る団音に分けられる。尖音は日本漢字音で「サ行・ザ行」で読み、団音は「カ行・ガ行」で読むから、日本人には容易に区別できる。16世紀以前には北京語でも[ts][tsʰ][s]と[k][kʰ][h]で明瞭に区別されていたが、17世紀には団音が舌面音[te][teʰ][ɕ]になり、18世紀には尖音もそれに合流した。

【レベル1】尖音と団音に分けなさい。

- ① 「西」「希」「写」「邪」「血」「些」「諧」「相」「郷」
- ② 「七」「妻」「奇」「起」「齊」「前」「錢」「千」「謙」
- ③ 「記」「祭」「九」「就」「結」「節」「將」「見」「軍」

【レベル2】16世紀以前の北京音はどれか？

- 「昔」①[si]、②[ei]、③[hi]
「紀」①[gi]、②[ki]、③[tei]、④[hi]
「切」①[kʰie]、②[tsʰie]、③[sie]
「須」①[ey]、②[hy]、③[sy]
「權」①[kyen]、②[hyen]、③[teʰyen]、④[kʰyen]

【レベル3】次の発音としてありうるのは、(a)18世紀の北京語、(b)16世紀の北京語、(c)17世紀の官話のうちどれか？(複数回答も可)

- ① 節[tsie]、② 結[teie]、③ 切[tsʰieʔ]、④ 虚[hy]、⑤ 学[hioʔ]、⑥ 角[kiau]、⑦ 許[ey]

【解答と解説】

【1】日本語で読んで、サ行・ザ行なら尖音(S)、カ行・ガ行なら団音(D)なので、以下のようになる。

- ① 「西 S」「希 D」「写 S」「邪 S」「血 D」「些 S」「諧 D」「相 S」「郷 D」
- ② 「七 S」「妻 S」「奇 D」「起 D」「齊 S」「前 S」「錢 S」「千 S」「謙 D」
- ③ 「記 D」「祭 S」「九 D」「就 S」「結 D」「節 S」「將 S」「見 D」「軍 D」

【2】16世紀以前の北京音では、尖音が[ts][tsʰ][s]、団音が[k][kʰ][h]であるから、以下のようになる。(なお、[h]は[x]と表記されることもある。この二種は音声学的には異なる音だが、漢語では対立がないので、簡略に従う。[y]はピンインの「ü」。)

「昔」①[si]、「紀」②[ki]、「切」②[tsʰiɛ]、「須」③[sy]、「権」④[kʰyen]

舌面音の[te][teʰ][ɕ]が体系的に現れるのは、団音で17世紀、尖音で18世紀である。

【3】それぞれの特徴としては、(a)18世紀の北京語では尖音と団音が合流して舌面音[te][teʰ][ɕ]になっていること、(b)16世紀の北京語では尖音[ts][tsʰ][s]と団音[k][kʰ][h]が明瞭に区別されること、(c)17世紀の官話では尖音と団音が明瞭に区別され、かつ入声では声門閉鎖音韻尾[ʔ]があること、である。

- ① 節[tsiɛ]は(b)。 (c)なら声門閉鎖音韻尾が付く。
- ② 結[teɪɛ]は(a)。 明代の北京語や清代の官話には舌面音がない。南京音では19世紀後半以降に団音の舌面音化が生じたようである。1920年代に瞿秋白によって考案されたラテン化新文字は当初南京官話音によっていたが、その団音の表記「gi/ki/hi」の音価は舌面音[teʰi][ɕi]であった。(cf.中村雅之「ラテン化新文字は山東方言か」『KOTONOHA』第48号、2006年11月)
- ③ 切[tsʰiɛʔ]は(c)。 入声韻尾が最大の特徴。
- ④ 虚[hy]は(b)または(c)。 16世紀以前の北京語と官話は入声以外では大きな違いがない。
- ⑤ 学[hioʔ]は(c)。 入声韻尾がある。なお、15世紀後半にこの官話音を模倣した[hio]が北京語に文言音として入る。現代音の[ɕyɛ]はその末裔である。
- ⑥ 角[kiau]は(b)。 元代以来の伝統的な北京語白話音である。官話音は[kioʔ]
- ⑦ 許[ɕy]は(a)。 官話音は[hy]。